

研究発表 I

学 校 名：二宮高等学校 PTA

研究テーマ：「つながる二宮～新しい PTA のかたちをめざして～」

1. 二宮町について

二宮町は、古くから信仰を寄せる相模国二之宮の鎮座する町として、近代では東海道線の沿線として栄えました。

2. 学校紹介

二宮高校は、町唯一の県立学校として地域の期待を背負い、昭和 53 年、歴史と自然ある町の高台に設立されました。全校生徒約 700 名、インクルーシブ教育実践推進校として「ともに学び、ともに育つ、共生社会の実現」を目指しています。また、部活動では本校の特徴的な部活である相模人形部があります。



3. PTA 組織と活動内容

【本部役員】

常置委員会・総会等の開催、各行事への参加などを行っています。先日の文化祭では来場者へのお茶配りを行いました。また、今回の発表に向け、春から議論を重ねてきました。

【学年委員会】

今年度は主に交通安全に関する指導等を行っています。9 月には自転車点検と交通安全指導を実施しました。

【広報委員会】

主に PTA 会報の作成や行事全般の広報活動を行っています。



【厚生委員会】

本校の自然豊かな環境の整備等を行っています。年 3 回の花植えを実施。文化祭では駄菓子屋を出店し、大盛況でした。



【成人委員会】

各行事で生徒への物品の配布等を行っています。先日の文化祭では、「にの高饅頭」を販売し、大変好評でした。



4. PTA の課題～役員・委員決め～

コロナ禍により各種委員会活動が制限され、伝統の「つながり」が希薄になってしまった昨今。様々な規制が緩和された今年度、活動を再開するにあたり、本校の PTA が抱える課題について考えることになりました。

その中でも、関心の高かったことは、PTA の役員・委員の選出方法についてでした。

本校の PTA の役員選出は、入学前アンケートに基づき、電話での勧誘を行います。定足数に満たない場合、合格者説明会の際に全体に再度募ります。立候補者を伺い、それでも定足数に満たない場合は、くじ引きにより選出を行っています。

しかし、事前に立候補していただける保護者の方は、決して多くはありません。そのため、どうしても抽選により選出させていただくことになってしまいます。

立候補していただけないのには、いくつか理由がありました。1つは、時代の変化により家庭のあり方が変わり、多忙により活動にPTA参加できないということ。2つ目は、PTAの活動内容がよくわからないというもの。

生徒のよりよい教育活動が行われるためにはなくてはならないPTA。このあり方がいま、問われています。この現状を受け、私たちは、コロナ禍を乗り越えた今、持続可能なPTA活動のあり方を模索すべきだということになりました。

5. あたらしいPTA活動を目指して

【各校にアンケート】

そこで私たちは、その第一歩として、PTAの役員・委員の選出方法について、見直してみることにしました。各校のPTAに協力を仰ぎ、アンケートを取らせていただきました。役員を選出方法、選出に際し困っていること、工夫していること、などを伺いました。

【アンケート結果】

選考方法については、どの学校も同じようなやり方でした。

選考の際、困っている点は？という質問に対しては、「選出されても辞退されたり、実際は参加されなかったりする方が多い」の声。

また、コロナ禍による課題もありました。「コロナによりPTA活動がなかったために、役員経験者が少ないため、選出が難しい」。

勧誘中に困ったことは、「勧誘のために電話をしてもなかなか繋がらなかったり、何度も説得したりなど、役員側の負担が大きい」という声。この点はまさに、現代のPTA活動の象徴的な課題点かと思います。

このような現状がある中で、各校どのような工夫をしているのでしょうか。PTA活動の宣伝として、「合格者へ渡す書類の中に、PTAの活動内容を記載したチラシを入れる」、さらには「PTA紹介動画を作成し、QRコードを案内チラシにつけて配布した」という学校も。

【アンケートを踏まえて】

本校では来年度の役員・委員決めでは、2つの観点から取り組みたいと思います。

1つは、PTAの活動内容をもっと知ってもらうために、PTAの活動紹介に力を入れます。具体的には、合格者への案内チラシに加え、PTAの紹介動画や紹介スライドの作成を行い、チラシに貼付することで、PTA活動の透明化を図り、参加しやすい雰囲気づくりをしていきます。また、合格者説明会では、PTAブースを設け、各委員からの活動内容の説明、勧誘を行い、待機時間には紹介動画を流すなど、開かれたPTAを目指します。

2つ目は活動内容の見直しです。今年から様々な活動が復活した一方、本当に生徒のために必要な活動なのか、あるいは、各家庭の実態に合った内容なのか、などの観点から各活動の見直しを行いました。

具体的に、今年度は、コロナ禍以前に行っていた球技大会の豚汁提供を中止。前日から膨大な仕込みを必要とする豚汁づくりは、家庭への負担があまりに大きいです。それから手配の段階から教員や役員への負担が大きく、安くない会費を使って行う社会見学も「生徒のためのPTA」、という観点から考え、今年度から中止としました。

つまり、コロナ禍以前の状態にそのまま戻すのではなく、持続可能なPTA活動を行うためには、見直し、場合によっては中止の決断をすることも、大切なのではないのでしょうか。

6. おわりに

PTA活動には課題が山積していますが、生徒のより良い学校生活を実現するためには必要不可欠な活動です。PTA活動をやっていてよかった、という声もたくさんありました。

この取組の結果が出るには長い時間が必要かもしれません。しかし、二宮高校PTAは、「つながり」をより強く、より深いものにしていくために、歩みを止めることなく、あたらしいPTAのかたち、を模索していきます。